

圧入の未来を切り拓く

■先輩インタビュー



高知工業高等専門学校
建設システム工学科 卒業

山下 晋平
shinpei yamashita

誠実に仕事に取り組む
そこから生まれる信頼関係が
やりがいに繋がる

圧入原理の優位性を普及

ゼネコンやコンサルタントに対してサイレントパイラーを用いた圧入工法のPR活動を行います。そして、実施工前の事前打合せ・契約・資機材手配を行い、現場稼働中は工程管理・請求業務も行います。また、現場見学会などを通して圧入工法の普及拡大を図っています。「技研さんじゃな

いとこの工事はできなかった。さすが技研さん！」と元請の方から言葉をいただいたときは、自分の仕事が認められ、役に立っていることを実感し、自分の仕事に対する大きな自信と誇りを持つことができました。私が仕事の中で大切にしていることは、『常に誠実であること』。当社は

圧入工法の優位性を武器に信頼をいただいておりますが、実際の現場では「人対人」の信頼関係が重要になると考えています。そのため、自社だけが有利になるだけでなく、仕事をいただいている会社のこと考えてWin-Winの関係になるように心がけています。

入社～現在～これから

私が幼い頃、工事現場近くで遊んでいた時に見た“変わった機械”が印象に残っていて、その機械を作っている会社で自分の地元の会社だということがわかり、運命を感じて応募を決意しました。入社後は、主に施工計画や施工検討の業務に携わり、その経験を活かして機械保有ユーザーを支援する部署を経て、現在に至ります。将来は、今までやったことのない新しい工法を自分で提案し、検討、実際の現場に採用させるよう取り組んでいます。



学生の皆さんへ

就職活動はたくさんの選択肢があり、自分の得意分野を活かすにはどんな仕事がいいのかと、不安があるかもしれません。しかし、会社に入ってみると自分の長所だとは思っていなかった部分が、実際には会社で、社会で非常に役に立つことが多々あります。多くの経験をし、学生の間にいろいろなことにチャレンジして社会に飛び出すことがと重要だと考えます。



山下さんのある1日のスケジュール

8:00

出社・環境整備・進捗管理

毎日気持ちよく仕事ができるように、朝は皆で事務所内の環境整備を行います。その後、担当現場が計画通り進んでいるか、毎日チェックします。



9:00

打合せ資料準備・外出

受注活動を行っている案件の打合せで必要となる資料を準備します。東北地方全域が担当のため、移動だけで2時間~3時間かかることもあります。

11:00

案件打合せ・現場視察

元請会社の方と現場条件や作業条件などの打ち合わせを行います。その際、施工中の現場があれば挨拶に行ったり現場状況を直接確認します。



12:00

昼食

会社にいる時は近くの定食屋などで昼食をとります。外出先の場合、地域のおいしいグルメを食べに行きます。

13:00

社内打合せ

午前中に打合せした内容を社内の関係者に報告します。その後、どのような方針で受注していくか戦略を練っていきます。

14:00

施工方法検討

確認した現場条件・作業条件のもと、どのような方法で行えば具体的に工事ができるのか各部署に協力を仰ぎながら検討します。



16:00

見積書作成

施工方法を検討して方針が固まれば、工事に必要な費用を計算し、見積書を作成します。

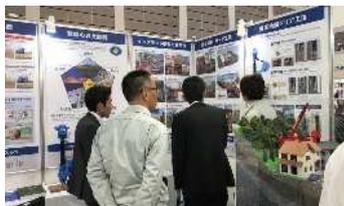
17:00

帰宅or食事

工事完成後は、現場のみんなと食事に行ってお楽しみします。



ほ かにこんなお仕事が



東北での展示会の様子です。土木関係者に圧入工事の説明をします。



学会での発表も行います。写真は高知県で行われた国際圧入学会の様子。



安全な作業環境作りに向けて、現場で行われる安全大会にも参加します。

もっと知りたい現場について
山下さんが携わった
東北の現場をピックアップ



土砂災害防止のために造られ、登録有形文化財にも指定されている大源太川第1号砂防堰堤(さぼうえんてい)の現場です。完成後70年以上が経過し、老朽化の進んだ堰堤補強工事でしたが、自然に影響の少ない圧入工法で工事をを行い、景観を損なうことなく施工できました。



東日本大震災で被災した岩手県大船渡市の防潮堤復旧・新設作業の現場です。狭いスペースでの施工と硬い岩盤への打込みが必要な難しい場所でしたが圧入工法でスムーズな施工が実現しました。



宮城県石巻港の復旧工事です。工場が隣接して重機が近づけない、漁港があるため泥水を流せないなど厳しい条件がありました。高難度の現場でしたが、技研力を駆使し圧入工法で完遂しました。